

絆 求 め て

2月3日発行

文責 私学振興専門員 久保田学



学校評価について

新型コロナウイルス感染拡大の状況をにらみつつ園訪問をさせていただいています。その際、何園かの先生方と学校評価についてお話することがありました。既に年間計画に位置づけ取り組まれている園もあると思います。しかし、「どんな内容でしたら良いか分からない」「どのように進めたら良いか」「結果の公表はどうするのか」など、様々な課題についてお話いただいた園もありました。そこで、今回は、学校評価についてお伝えします。

学校評価については、平成19年6月に学校教育法、同年10月に学校教育法施行規則の改正により、学校自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告が定められました。現段階では、学校自己評価は実施義務が、学校関係者評価は実施努力義務となります。以下に、学校評価が大切な理由や学校自己評価と学校関係者評価の違いや特徴をまとめてみました。

<学校評価が大切なわけ>

幼稚園は義務教育でないため、就園するかしないか、どの園を選択するかは保護者の考えによります。そのため、保護者にとってその幼稚園の学校運営の状況について学校評価を通して理解いただくことは重要です。また、入園後も保護者との連携協力を図る上でも有効と言えます。

<学校自己評価と学校関係者評価の違い>

学校自己評価	学校の教職員が行う評価。必要に応じて、保護者や子どもさんから寄せられた具体的な意見や要望、アンケートの結果を活用します。
学校関係者評価	保護者や地域住民などの学校関係者により構成された「評価委員会」が、自己評価の結果について、評価することを基本として行う評価です。

<学校自己評価の形式について>

学校自己評価には決まった形式はありません。各園での状況に合わせ、園で工夫し、園の教育課程の充実に有効となるものを作成いただくと良いと思います。参考として、「幼稚園における学校評価ガイドライン（平成23年改訂）で例示されている学校自己評価の進め方や結果公表のためのシートを紹介します。

(1) 学校自己評価の進め方

- ①学校教育目標を達成するために重点的に取り組む内容（重点目標・計画）を設定する
- ②重点目標・計画について、取組や成果を評価するための評価項目を設定する

<評価項目を設定する際の視点となる分野>

- 教育課程・指導 ○保健管理 ○安全管理 ○特別支援教育 ○組織運営 ○研修（資質向上の取組）
- 教育目標・学校評価 ○情報提供 ○保護者・地域住民との連携 ○子育て支援 ○預かり保育
- 教育環境整備 ○組織運営等の状況 ○指導等の状況 ○保健・安全管理状況
- 家庭・地域との連携協力の状況

③必要に応じて、評価指標や基準を設定する

*評価指標は、「評価項目」の達成状況や達成に向けた取組の状況を把握するための視点

*評価基準は、具体的にどのような取組をどの程度行うかを、保育の実践場面としてイメージしやすいように示したもの

※評価指標を更に、「取組指標」「成果指標」に分けて位置付けている場合もある

→「取組指標」は、どの程度取り組むか（回数や数値的な指標）「成果指標」は、取り組んだ結果、成果として期待する児童や教職員の育ちの姿を具体的に示したもの

(2) 学校自己評価を公表する場合の形式例

学校自己評価は、最終的にその結果について考察し、保育の質の向上に生かすためのものです。幼稚園は、学校自己評価の結果を報告書として外部に公表することで保護者をはじめ地域社会と連携して、子どもの育成を進めていくための相互理解の場と言えます。ここでは、具体的な報告書の形式を紹介します。

評価報告書		〇〇園
1 幼稚園の教育目標		
2 本年度の重点目標とそれを評価するための評価項目や計画		
3 評価項目の達成状況および取組状況		
評価項目	結 果	理 由
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		
*項目は必要に応じて増やす		
4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果		
結 果	理 由	
「3、4の評価結果の表示方法		
A	十分達成されている	
B	達成されている	
C	取り組まれているが、成果が十分でない	
D	取組が不十分である	
5 今後取り組むべき課題		
課 題	具体的な取組方法	

<参考> 3の評価項目の達成状況や取組状況については、取組指標、成果指標を設け、その成果をもとに、総合的な評価（統括評価）をする例もあります。以下にその一例を載せました。

※全国幼児教育研究協会「実効性のある学校評価の実施に向けて」より 引用

重点目標	評価項目	評価指標及び評価結果						総括評価	コメント
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果		
保育の見直しと環境構成	【教育活動・指導】 幼児期の発達や幼児の学びを踏まえた教材を工夫し、環境構成をする	4	子どもの主体性とねらいとのバランスを考えて、遊具や用具を揃え、環境の構成を工夫する	2.6	4	子どもは、教師が研究して準備したモノに興味や関心をもち、活用しながら更に遊びが発展した	2.4	B (2.5)	・子どもの遊びや生活の姿に合わせ事前準備をしたり、研修会で学んだことを遊びに取り入れたりし、自分なりに工夫して準備するように努めることで、子どもの主体性やねがいが達成できている
		3	省略		3	省略			
		2	省略		2	省略			
		1	一人一人に合った遊具や用具を準備する		1	子どもは、教師が提示したり環境として置いたりしたモノを見ている			

